

## 東京 2020 オリンピック回顧

### 第一章

その時、私は長野駅東口のレストランで開催地の発表を待っていた。店内には小中学生のダンスチームや一般の人達でいっぱいであった。時刻は 2013 年 9 月 8 日（日）早朝だ、私は早くから待っていた、そして 5 時 20 分、生で見ていた IOC 総会映像が会長の開催地を発表する時が来た、一瞬みんな静まり返りテレビの画面に集中した瞬間ジャック・ロゲ会長が"トキョー"と発した。

もうみんなウワー、やった〜と歓声が店内を埋め尽くし小中学生の子供達は飛び上がって喜んでいて。私もガッツポーズをとり東京 64 時の”日の丸旗”を掲げて興奮状態だった、その時 NHK のカメラが私の下からアップで撮っていて、インタビューも受けたそれが朝の 7 時の NHK ニュースのトップから放送されたのだった。

知り合いからは見たぞ〜って何本も電話がかかって来たのだそしてその日の昼からは長野オリンピックからピンバッジを収集している市内の愛好家十数人が集まって祝賀会を開いたのである。

## 第二章

オリンピックまで7年その間にも冬季ソチオリンピック、夏季リオオリンピック、冬季平昌があるし、ピンバッジもメディアを中心に集めるし、年に一回長野オリンピック開会式近くの日曜日にやっているピンズる祭り、2009年からはピンバッジコレクションと名前が変わったが毎年楽しみにしている人達で盛況なイベントとなっている。日本で唯一のオリンピックピンバッジをメインとした愛好家の交換会がある。

仲間はいち早く東京 2020 オリンピックのピンバッジを手にしようと日夜情報を集める日々が続く中、2015年4月15日に大会マークが決定し2016年6月23日からオフィシャルショップができてピンバッジの販売も始まりました。私は1000日前500日前とカウントダウンピンバッジセットを揃えて行きました。特に2019年3月12日500日前は有明のパナソニックに行ってきました。この日初めてピクトグラムが発表されたのであった。

その前に、我々マニアはオリンピック招致ピンバッジ、立候補ピンバッジも競って集めています。東京都国内立候補都市2011年9月2日、IOC理事会で3都市に選ばれる2012年5月2日。

### 第三章

さあいよいよあと一年でオリンピックがやって来る、ピンバッジもスポンサー物がぼちぼち出だして来ました。メルカリで手に入れるのだが高い、都内のイベントに行っても簡単には手に入らない、欲しいピンバッジはメルカリで高額で手に入れるかという状況だ。メルカリは関係者が出していて珍しいのが出てくるのだがいずれも高額だし速攻落札する人には負けてしまう、eBay のオークションは偽物ばかりで手は出せないのだ。

そんなわくわくドキドキしてる中、突然 2020 年 1 月中国武漢で新型コロナウイルスが発生したニュースが流れ、日本でも大阪のバスガイドさんが新型コロナウイルスに感染した、横浜入港のダイヤモンドプリンセス号内でコロナ患者が沢山出た、もうここからは毎日コロナのニュースがトップとなりオリンピックムードは全く禁句の肅清状態となってしまった。我々が毎年やってるピンバッジコレクションイベントは 2 月という事でかろうじて開催したのである。

そして、2020 年 3 月 24 日オリンピックの 1 年延期が決定する。ここからはもう地獄の 1 年間が始まるのである、外出は控えなきゃいけないし、3 密状態は避けないといけないし、何にもできない状

態が続くのである。2020年2月の交換会から2021年9月までピンバッジ仲間との交流は全くなかった。まさに地獄の日々を過ごしてきたのです。

#### 第四章

2021年5月ここから私のオリンピックモードが再スタートするのだ。2020年にオリンピックが開催される予定で期間中のホテルは予約しており、抽選で当たった観戦チケットもあるし行く準備は出来ていたのもう一度ホテルを予約しなおしてコロナ対策のワクチンも2回接種し、オリンピックの東京に行く事を決めたのである。他の仲間は東京へ行ったはいいが長野に戻ってからは自宅待機なんて状況が世間では言われていたので、ほとんど行く人はいなかった。

そんな中またショックな情報が流れてきたのだ、2021年7月8日に無観客での開催が決定してしまうのである。これは本当にショックであった、長野オリンピックでジャンプ団体金メダル瞬間を観た者としてはもう一度あの時の興奮を味わいたいと思っていたので残念で仕方がなかった。チケットも高額のホスピタリティチケットを購入しコロナ過でもなんとか海外メディアや関係者と接触しピンバ

ッジを交換しようとしていたのである。特に残念なのは男子体操個人決勝のホスピタリティチケットがあって、あの橋本大輝選手が金メダルを取る瞬間が生で観れたのに悔しい思いです。あの瞬間は長野オリンピックで船木選手が最終ジャンパーで飛んで金メダルを決めた瞬間と全く一緒のように思います。

そうは言っても無観客でも観れる競技はあるのでそれを楽しむことにしました。トライアスロンと自転車ロードレースです、あとBMXレーシングもゆりかもめ駅のホームから丸見えでした。トライアスロンはお台場なので、泊ってるホテルからすぐ近くです。スタートが早朝だったんですが沿道にはたくさんの観客が居て少しはオリンピック気分浸れたのである。

## 第五章

さあ、いよいよここからはピンバッジの交換交流のお話をしましょう。今回のオリンピックは緊急事態宣言下のコロナ過でソーシャルディスタンス、3密は避けるのが原則なので、まずスポンサーのブースは一つもありませんでした。コカ・コーラは毎回オリンピックでトレーディングセンタを開設しているんですが今回は一切あり

ませんでした、唯一抽選コーナーがあるだけでした、なのでスポンサーピンバッジを集める事は不可能です。都内でも抽選とかでピンバッジがもらえる場所が2か所くらいあるだけで、オリンピックの派手な装飾は全くありません。そんな中、私は有明のホテルが無観客になって空いていたのでここに期間中は宿泊していました。すぐ近くに国際放送センターのビックサイトがあります。私の目指しているメディアピンがいっぱいある IBC,MPC センターです。

私は朝から国際放送センターに出入りする人を捕まえてはピンバッジを交換していました。何人に声をかけたか数えていませんが100人以上には声をかけてピンバッジを交換しています。相手のメディア関係者に"ピンバッジチェンジ OK"と言って近づいて行くと気軽にIDカードのネックストラップに付けているピンバッジと交換が出来ました。最初は海外の人達との交換が主でしたが後半あたりからボランティアの人達との交換が出来ました。特に女性が多くピンバッジをストラップに付けていましたね、中には支給されたウェストバックとネックストラップをたすき掛けにしてピンバッジをいっぱい付けていた女性もいました。ボランティアさん達は女性の方が元気がいいような気がしました。

海外の関係者には大会マスコットのミライトワ、ソメイティのピンバッジが人気がありました。やはり自分が集めたスポンサーや凝ったピンバッジは人気が無く大会マークの入ったシンプルな物が良く交換できました。私は海外のメディアピンは現場にいたのではほとんど集める事が出来ました。日本のメディアピンは私も探していたんですが、海外の関係者に人気があって我々地元の者には回って来ませんでした。たまに、日本のメディアが入った時は嬉しかったですね。オリンピックでいつも人気のドラえもんとかピカチュウのピンバッジは全く手に入りません。海外の人達や関係者がみんな持って行ったようです。欲しい物はメルカリで入手するしかありませんでした。

私は有明界限にしかいなかったんで、メディアピン関係はたくさん集まったんですが、都内でやっていた人はチームピンがいっぱい集まったようですね、今回選手は競技会場と選手村の往復で我々と接触する事はないんですが、会場や選手村ボランティアの人達が選手達からいっぱいピンバッジをもらっているようでした。

私が今回のオリンピック現地に行ったおかげで長野の仲間達も恩恵にあずかっているんですね、いろんなピンが出ているので偽物か本

物かの問い合わせがあってもすぐに真贋の返事が出来ました。国際放送センターには日本人スタッフも沢山いてその人達もピンバッジを集めています、だからその人に聞けばすぐに判明します。このオリンピックでは偽物ピンはほとんど出回りませんでした。eBayなどではだいぶ前から偽物が出ていましたがそういった物は全く見かけませんでした。幸か不幸かコロナ過で海外不良トレーダが入って来なかったのが良かったのでしょうかね。

## 第六章

最後に本当に楽しかったオリンピック。行ってよかったオリンピックだったんですが、面白い事が結構ありましたね。

本来なら情報発信を行い人を集めてオリンピックを盛り上げるんですが、一切メディアも東京都も情報発信が無かったですね、一番驚いたのは第二聖火と言うべき有明にある聖火の情報が無かった。オリンピックスタジアムは開会式と閉会式ではあったんですがその後は有明で期間中は聖火が燃えていたんです。最初の点火も数十人だけで日中もほとんど人通りが無かった。中間ぐらいから噂で聞いて集まって来たくらいで、私も聖火はどこにあるんですかってよく

聞かれました。

もう一つ聖火で驚いたのは、私のホテルは第二聖火まで歩いて1分と言う好立地なんです。夜中の3時に聖火を見に行ったんですよ。夜の聖火の写真を撮ろうと行ったんです、警官二人と実行委員会のガードマンが居たんですね、前と後ろで撮るのは良いらしいんですが横から近づいて撮ろうとすると"止まらないで下さい、危険ですから近づかないで下さい"って何回も制止されるんですね、そこにいるのは警官二人とそのガードマンと私の四人しかいないんですよそれなのに止まらないで下さい危険ですから近づかないで下さいって何回も制止されました、警察官は黙って見ているだけでしたね。これには驚いたし笑っちゃいました、オリンピックで混雑してる時のマニュアルをそのまま夜中の3時に実行してる事にあきれちゃいました。

コロナ過で小池都知事もオリンピックはテレビで観て下さいと言ってる中行った訳なので、少しは行動に気を付けていました。交通機関に乗る時もマスクは二重に付け携帯アルコールはいつも持ち歩いていました。都内交通機関もびっくりするくらいガラガラでした、山手線の車内は数人、私営鉄道もガラガラ、一番びっくりしたのは

都営大江戸線の国立競技場駅に下車した時地上に出るまで誰にも会わなかったのはちょっと怖かったですね、駅構内にはオリンピックの装飾が圧倒していたんですが、一瞬地球から一人取り残されたのかと思いました。新橋からゆりかもめで東京ビックサイト駅まで行くんだけど、一両車内に私一人なんて状況はよくありました。

でも、渋谷の交差点、ミヤシタパークはいっぱい人が居ましたね、よく見ると若者達が多いです、年配の高齢者はほとんど見かけませんでした。私は高齢者になるのかな、、、

さて、ピンバッジ交換で凄い人と交換していた事が後でわかりました、それはオリンピックが始まった頃、ゆりかもめの東京ビックサイト駅から降りてきた人なんです、その人は金髪で黒のワンピース服にピンヒールを履いて、後ろにはロングドレスが入った衣装ケースを持った男性を連れてさっそうと歩いていました、私は角を曲がり国際放送センターの方に歩いて行こうとするその金髪外国人に後ろから声を掛けました"ピンバッジトレード OK"と言うと、すると彼女は止まってこちらを向き無言で私を見ました、後ろの男性はちょっと笑ったように見えました、すかさずネクストラップに付けているピンバッジを指さし、"チェンジ OK"っと言うとピンを外して

私に渡してくれて、私の交換ピンも見せて彼女が好きなピンを取っていきました。

もう一個欲しいピンがあったので、"ディスワンチェンジ OK"と聞いたところ"NO"と言ったところで最後に当時皆やっていた肘グータッチでお別れしました、当時世界の TOP は皆やっていたので普通にやってくれました、今回海外の人達との最後の挨拶は握手ではなく肘グータッチがほとんどでした。さてさてこの金髪美人はNBCアンカーだったメーガン・ケリーだったのです。ツンとしたところが無くとても庶民的な世界の TOP 女性ジャーナリストでした。写真撮っておけばよかったと今も後悔しています、それからは交換した人達の写真は出来るだけ撮るようにしました。

オリンピック期間中は毎日フェイスブックを更新していました。今思えばフェイスブックやツイッター、インスタなどを交換して置けばよかったかなと思っています。

最後にもう一つ、今回のオリンピックボランティアはシティボランティアもフィールドボランティアも女性が元気よくて見かけるボランティアさんはほぼ女性でしたね、ピンバッジが凄い人もいたり中には通訳ボランティアってのもあるんですね、ある時スペイン語

の通訳ボランティアさんと話をした時 IOC 委員に付きっ切りだそうなんです、コロナ過のせいかあまり振り回されなかったって言っていました。彼女はピンバッジに興味なくてボランティアさんしかもらえない金銀銅のピンバッジを全部速攻でもらいました。

## 第七章

ここまではオリンピック当時の模様をお届けしてきましたが、チケット代・ホテル代などだいたいどのくらいお金を使ったかお話ししましょうかね、まずオリンピックスポンサーである VISA カードの申し込みを 2019 年 2 月にして、5 月から始まるチケット抽選申し込みの準備をした。18 競技申し込んだが全部外れた、当たれば総額 10 万円のチケット代金だった、一番安い席を申し込んでいた。8 月からの追加抽選に申し込みをして何とかパラリンピック 3 競技、オリンピックは 2 競技が当たった。運が良いのか周りで当たった人は俺くらいだった。車椅子バスケット、ボッチャ、陸上・女子ウェイトリフティング、男子ボクシングだ、全部で 2 万円ちょっとだ、ボッチャなんて 1200 円だし、でも新しい有明体操競技場に入れるしウキウキだった。当時はスポンサー旅行会社も抽選受付をやっていて

東武 TOP ツアーの女子卓球シングル決勝・表彰式を申し込んだ。そしたら見事 2020 年 1 月に当選しちゃってツアー金額が 2 泊 3 日で 23 万なのよ、払いましたよ、だって伊藤美誠ちゃんだよ払うに決まってるよね。無観客で返金されましたけど残念でした。

そして聖火リレーも 2019 年 7 月に申し込みました。長野県、NTT、日本生命、トヨタ、コカ・コーラの 4 社 1 自治体に長文の申し込み文章を添えて送った。8 月にはコカ・コーラからプレ選考に通過しましたって連絡が来てもうヤッターって周りに俺聖火ランナーやるから見に来てくれってふれまわっちゃった。4 月 2 日の長野市聖火ランナーを申し込んだが結局あれからどこからも連絡は無かった。2020 年 2 月には聖火ランナーボランティアの申し込みがあったが聖火ランナーだと思っていたので申し込まなかった。

さあ、チケットも手に入ったし東京の行動をどうするか検討した最初はスポーツクラブの 24 時間営業やってるところで過ごすか、漫画喫茶で泊まる事を想定し事前に豊洲や都内の漫画喫茶の会員になってみた。スポーツクラブは会員だからタダで過ごせるし、漫画喫茶の泊りは数千円だ。でもね、そんな体力は無いし東京日本のオリンピックだよ。決断しました。ホテルを予約する事にした。2020 年

2月からJTBから始まって予約が出来た、高いねオリンピック価格だ、5万から十数万までが主流だった。私はオリンピック期間中3つのホテルを予約する事が出来ました。合計40万円で高くて1泊朝食付いて3.5万円だった、安いところは素泊まり1.8万円でした。まあそれも中止となって速攻返却されましたね。当時期間中のホテル予約はカード決済のみでキャンセル不可の契約でしたね。

1年延期で2021年5月にホテルを開会式から閉会式までとパラリンピックも再予約して65万円だった。それも7月8日に無観客になって全キャンセルし、有明のホテルを7月11日に予約しなおした、同じ期間で45万円で少し節約となった。結局7月と8月に東京に30日間滞在する事にしました。2020年は競技前後の予約をしたが延期となった2021年は全期間の予約をしたんですね。

さて、もう一つのチケット制度があって、ホスピタリティチケットだ。競技観戦チケットとプライベート席での飲食が付いたチケットだ。2020年は企業優先だったみたいで個人は申し込み方が分からなかったが、1年延期で個人でも申し込めるようになっていた。私は大阪なおみ選手の決勝戦の有明テニスの森、男子個人体操決勝の有明体操競技場、どうしても入りたかったオリンピックスタジアムの

3会場のホスピタリティチケットを購入した、抽選ではなくて先着順であった。男子個人体操決勝のチケットが6月30日に届いた。凄いよ観戦チケットはプラスチックのような紙で、もう一つのホスピタリティチケットもあって、チケットホルダーも付いてきた、立派な両開きの本タイプの箱に入って送られてきたのだ。3つのホスピタリティチケットの代金は671000円である。ただ無観客になってしまい、あと二つのチケットは来なかった。送って下さいと連絡しても無理だった。一般の観戦チケットは配れずじまいで、あとでPDFファイルで送られて来るだけだった、ツアー会社には配られていたと思うが、ネットには高額で流出していたね。

観戦チケット、ホスピタリティチケットは全額返金された。

## 第八章

このオリンピックが延期になってからは取材されることがとても多かった。まずは公式ライセンス商品オフィシャルブックを制作した角川書店から長野オリンピック当時の状況を聞きたいから始まって、共同通信社がその角川書店のオフィシャルブックに興味を持ってピンバッジ交換内容の取材を受けました、2021年3月20日には

海外からの観客は入国させない方針が決まったので、海外有名トレーダーとの交換交流が出来なくて残念だとの記事が5月1日に配信された。そして6月20日には観客上限50%の1万人が限度の情報があって6月22日には上限があっても会場に入れるならオリンピックを楽しみたいと言う記事がこれまた共同通信社から顔写真付きで配信された。

とどめが7月8日に無観客決定した夜にも取材があつて、これはチケットあるのに行けなくて残念だという記事で共同通信ネットニュース配信となってヤフーニュースのトップに午前中は載っていた。治安が良くないヤフーニュースコメント欄だが、ほとんどが残念だと言う同情のコメントが多くてほっとした。当時はオリンピックを見に行くんだ楽しむんだといったSNSには批判コメントが多かったこんなコロナ過で楽しむとかは不謹慎だという世間の状況だった。同じ内容の取材を地元SBCテレビから連絡があつて昼に家まで行って取材したいという事で、届いていた男子個人体操決勝のチケットを見せて無観客となって残念であると言うインタビューが7月9日夕方のSBCニュースで流れた。

それから、天下の日刊スポーツが私のブログを見つけて連絡して

きたのである、オリンピックでのピンバッジ交換交流の取材内容だった。その時の取材時のコメントが地獄の五輪だ。ピンバッジ愛好家悲鳴と言う記事で顔写真と地獄の五輪の文字がでかでか 2021 年 5 月 30 日付け新聞に載った。日刊スポーツのネット記事にも載ったのである。そしてオリンピックが終わって年末に東京オリンピックのピンバッジ交換交流についての取材をまた受けました。2021 年 12 月 25 日には日刊スポーツ紙面とネットニュースに"2021 年の記憶"と題してピンバッジの額を両脇に抱えた写真が掲載されました。ピンバッジ交換の文化もオリンピックにはあると言う記事も掲載されてよかったと思います。

あと、ロイター通信と CNN にも取材を受けましたが、数行の記事です。いずれもピンバッジの内容でした。

今回の東京 2020 オリンピック・パラリンピックは行ってよかった。とても楽しかったオリンピックでした。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

初版 2021.12.30

改訂 2022.1.14

改訂 2022.1.16

改訂 2022.1.18

玉井政道